

均よりも低い介護認定率、等の効果も上げている。

個々のアプローチも良い。市民の65%を占める健康行動無関心層への対策で普段の生活で自然と必要な運動量が満たされるまちづくりへ→『スマートウエルネスみつけ』の推進へ展開し、例えば、

○ 健康になれるまち では、歩きたくなる景観、公園、自転車通行帯や道路整備。公共交通体系の 路線バス、コミュニティバス、デマンドタクシー、レンタサイクル、コミュニティワゴンの整備等 施策が十分すぎるくらい徹底している。

更に、まちづくりの方向性を担保するために、様々な条例や計画を制定・策定している。

○ スマートウエルネスシティ施策を進める7つのポイント では、社会参加（外出）でできる場づくりで、交流拠点として「ネーブルみつけ」（スーパー跡、年間利用者50万人）、やふるさとセンター他。生きがい・社会貢献として、悠々ライフや健康サポートクラブ他。等、様々な施設や施策を展開している。

大山町に取り入れたい施策や施設としては、○ 小児生活習慣病事業 ○ 健康の駅 ○ 脳の健康教室 ○ 運動機器を使用した健康運動教室 ○ 歩きたくなる道路、景観、公園、自転車通行帯等 ○ 包括的なごみの減量化、新・省エネルギー ○ 健幸ポイントプロジェクト ○ 「ネーブルみつけ」のような施設を町の中心部に1箇所 ○ ふるさとの魅力を磨く人材の育成 等である。更に、研究・検討の必要があると考える。

◎ 下仁田町役場 「ふるさとスマホの取組み」新たな地域 ICT（インフラ）を活用した防災・健康・安全のまちづくり

群馬県の西南部 面積 188.38 km² (17.5 kmと東西に長い) 人口 7,633人 高齢化率 50%超 議員 12人 こんにやくと下仁田葱が特産

応対者 金井康行町長、佐藤勇二議会議長、岩崎正春副議長、佐藤博予算決算委員会委員長、吉弘拓生副町長、萩野英雄健康課長、樋口令子議会事務局長

1. 事業実施の背景

- 急速な高齢化の進行で、災害時等における情報発信および受信手段の確保が急務。
- 防災無線での呼びかけを行っているが、地方創生を機会に行った住民アンケートで「防災無線が聞こえない」「聞きづらい」「聞き直したい」などという 多くの意見を頂いた。
- 難聴地域については「個別受信機」を設置して対応。また高齢者の独居世帯等で希望者には、有料で「緊急通報システム」を導入。
- このような中、高齢者を対象に「防災」「見守り」「地域安全」の観点から、多機能情報端末を活用した取組みの可能性等、課題調査と可能性調査が出来ないか。

2. 現状の情報伝達手段

- 防災行政無線を整備済み。難聴地域に限り「個別受信機」を設置。(680世帯×2万円)
- 高齢者で見守りが必要な世帯に「緊急通報システム」を配置。(70世帯 3,000円/月)
- しもにたインフォメールにより、防災情報、火災情報、イベント情報などをメールにて配信 (H28年4月から開始)。

※ 人命にかかわる情報を確実に届けたい

3. 導入の契機

- 「自治体スマホ連絡協議会」が設置される報道があり (H27.7)
- 連絡協議会は同じ悩みを持つ自治体、更には地域活性化、地方創生に繋がる一歩進んだ事業構想を持つメンバーで構成されると知り、メンバー入りを決定。

。全国 70 の自治体が加盟する組織となり、情報交換や実証事業等を民間企業等と共同で展開している (H27.11.18 に設立総会)。

※ 新しい公共インフラとして多機能通信媒体「スマートフォン」の活用に着目。活用方法等について協働で研究を行う。

4. 下仁田町が目指す活用方法… 3つの方向性

- (1) 通常・災害時の情報伝達手段 (緊急情報発信)
- (2) 緊急時の高齢者見守り (安否確認)
- (3) 健康維持のため健康促進 (歩数計)

※ どこまで実施 (エリア・操作・機能) 可能で、実用化出来るかの実証事業で検証する。

※ 1つの端末で行う事が有効かどうかの検証も行う。

5. スマートフォン実証事業

モデル地区で様々なパターンを対象に 285 台の機器の予定が辞退もあり 174 台で実証事業を展開。

期間は平成 28.6.30 までの 3 か月間。費用は企業側負担でモニター利用 (包括連携)。

展開例 [健康促進]…医療費高騰 健康ポイント アプリケーション

[見守り]…独居老人 安否確認 コミュニティ支援

[地方創生]…観光 商店街活性化 通販・ふるさと納税 等を想定。

実証では、配信数 108 (広報 73、イベント 33、お悔やみ・出産・結婚 2)。

6. 実証実験の結果

(1) 使いやすい機能…ふるすまチャンネル 37.5% インターネット 20.0% IP 電話 20.0% 歩数計 8.0%

(2) 満足度…大変役に立つ 29.2% 役に立つ 70.8% と満足度は非常に高い。特に、健康に対する意識、町からの情報に対する関心が高まる。又、防災無線は聞こえ難いので、文字でみられるのが良い。

7. 課題

(1) 使用上…使い方が分からないときのサポート体制。充電が毎日。課金が怖い。重くて持ち歩きに不便。鉄筋コンクリート建物内で位置情報が分からない場合がある。

(2) 初期投資及び使用料…全世帯配布での初期投資端末代 2 万円×3,040 世帯分、使用料 1,000 円×3,040×12 をどうするか。

所感

便利ではあるが課題も多い。高齢者の見守りには有効と考えるが、現状では重くて携帯に不便であり、常時携帯してもらえない保証がない。初期投資や使用料の問題もある。現在大山町では全世帯に個別受信機が設置済みであり、端末器の改良廉価を待った方が得策と考える。

◎ 鎌倉市内 「日本遺産鎌倉」

神奈川県 面積 39.53 km² 人口 172,478 人

ボランティアガイドの大竹正 (元中学校長、大杖議員の知人) さん他 2 人のお世話で市内を見学。

源頼朝により日本に初めての武家政権が樹立され(頼朝在職 1192 年 7 月~1199 年 1 月)、貴族支配に代わる新しい体制から数々の文化や伝統、生活様式が生み出された場所である。

頼朝によって幕府が開かれた後、急速に都市整備が進められ、まちの中心には鶴岡八幡宮が移設造営され、源氏及び鎌倉武士の守護神、また飢饉や疫病から救済する神としても広く武士や民衆が鎌倉に結集する基になった。山には切通し、山裾には禅宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。

この地に生きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、近代には多くの別荘が建てられたが、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられて来た。

源氏の政権は実朝が甥の公暁により暗殺され三代 27 年足らずで滅んだが、鎌倉幕府は通算 9 代迄 141 年間続いた。

この道を政治の中心としてまちづくりを行ったといわれている若宮大路、二の鳥居から三の鳥居の間、大路中央部に残る頼朝の妻昌子の安産祈願で造営された段葛（だんかずら）の物語。頼朝と義経の対立そして心痛の静の舞の物語、三代将軍実朝暗殺の物語、当時の武家社会での血を分けた兄弟や親族でも権力のためなら殺すといった時代背景。北条高時腹切りやぐらの物語。等々雄弁なガイドさんのお話がとても良かった。他に太鼓橋、源平池、流鏑馬の馬場等。

所感

年間 2,200 万人（H26 年延べ人数、実人数は凡そ 844 万人）もの観光客が訪れる一大観光地、江戸時代より江の島参拝の帰途に寄る旅程で発展。現代では、一大人口集積地の関東から近く、観光の目玉である鎌倉大仏や鶴岡八幡宮があるからか。

意外と鎌倉幕府の史跡遺産が少ないと感じた。この事が富岡製糸場より 1 年も前に世界遺産登録申請しながら叶わなかった理由のようである。

大山でもガイドさんが話したような興味深い古事物語を発掘できれば魅力が増すだろうに思う。

◎ 大磯町 「議会活性化」

神奈川県 面積 17.23 km² 人口 32,871 人 高齢化率 31.5% 議員 14 人（半数が女性）
湘南発祥の地、海水浴場発祥の地、明治期の避暑地として栄えた別荘文化の佇まいが残る
（歴代首相：伊藤博文から吉田茂まで 8 人が邸宅を構えた）。大磯の名を残すため合併は拒否。

応対者 中崎久雄町長、吉川重雄議長、奥津勝子議会運営委員会委員長、関威國議員、
増尾克治議会事務局長

1. 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

(1) 議会基本条例制定

地方分権時代を迎え、自治体の自己責任と自己決定の範囲が拡大し、意思決定機関、行政の監視機関としての議会の役割と責任がこれまで以上に重要となってきたことから、平成 19 年に議会運営委員会を中心に条例制定に向けた取り組みを始めた。

先進地視察、条例案の検討、パブリックコメント等を経て、町議会の最高規範として議会基本条例を平成 21 年 7 月に制定し同年 11 月に施行した。

(2) 議会基本条例の運用、議会活性化への取り組み

条例施行後町議会議員の改選が行われ、2 年が経過していたことから、本格的な議会基本条例の運用、議会改革に着手した。

まず、平成 24 年 2 月に法政大学廣瀬克哉教授を講師に招き、全国の条例運用状況等を